

# 45 地域生活を支える駅周辺のまちづくり

## (1) まちの拠点機能を向上させる

### ●駅周辺地区の整備

区内の駅周辺では、交通広場やアクセス道路などの整備が必ずしも十分ではない状況がある。また、利便性や安全性を高め、商業活動の活性化を図る必要がある。

このため、区内の各駅周辺を中心核、地域拠点、生活拠点と位置付け、交通広場や道路の整備を進めている。更に、便利でにぎわいのある商業環境等の生活利便性を向上させるなど、まちの拠点としての整備を進めている。

### ●練馬駅周辺整備

練馬駅周辺は、区役所を始め、警察署、消防署などの行政機関や、郵便局、練馬文化センター、練馬図書館、生涯学習センターなどの公共施設が集まっている。また、商業施設の集積度も高い。しかし、道路や駅前広場など都市基盤の整備が遅れていたため、交通混雑を引き起こし、商店街の活性化や発展にも弊害をもたらしていた。

そこで区では、駅周辺を中心核と位置付け、道路や駅前広場を始めとした都市基盤の整備を進めるとともに、平成2年度に「練馬駅周辺地区街づくり構想」を作成（5年度に一部修正）し、この構想に基づいてまちづくりを推進している。

駅北口地区においては、区として初めて都市計画決

定した区画街路1・2号線が5年3月に完成した。また、駅北口公共駐車場は7年7月に、北口交通広場やペDESTリアンデッキ(橋のような歩行者専用通路)は、西武池袋線の高架化に併せて15年3月に完成した。

駅北口の練馬一丁目地内では、道路の拡幅整備に併せてまちづくりの実現を図るため、「練馬駅北口地区地区計画」を21年6月に都市計画決定した。

駅南口地区においては、区画街路3号線が7年2月に、区役所前立体区道(やすらぎ歩道橋)が9年6月に完成した。

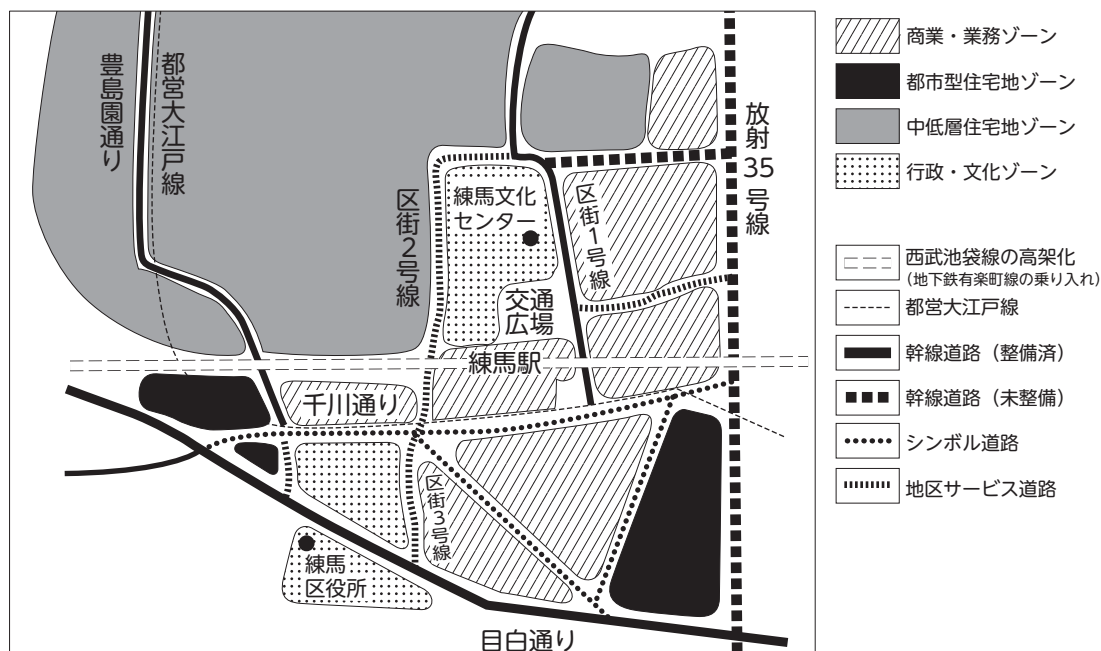
豊玉北五丁目地区においては、区内で初めて「街並み誘導型地区計画」を活用した「練馬駅南口地区地区計画」を、16年12月に都市計画決定した。また、道路の無電柱化が23年3月に完成した。

### ●石神井公園駅周辺整備

石神井公園駅周辺は、公共機関や商業施設が多く、周辺住宅地域を含めた地域の中心的役割を果たしている。また、都立石神井公園の玄関口でもあり、地区外からの来訪者も少なくない。

このような状況にもかかわらず、駅に通じる道路は狭く、駅前広場や道路、踏切など駅周辺の交通環境の整備が十分とはいえない状況であったため、鉄道の高架化や駅前広場の整備を行い、現在、都市計画道路の整備を進めている。

### 〔練馬駅周辺土地利用方針〕



## 1 整備の方針

区では、石神井公園駅周辺地区を区西部における地域拠点の一つと位置づけ、15年6月に「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」を策定し、つぎのような整備方針に基づいて総合的なまちづくりを推進している。

- (1) 鉄道の連続立体交差事業の計画にあわせて、補助132号線、補助232号線、南口駅前広場、富士街道の整備について、地元住民と検討・協議しながら進めていく。
- (2) 基盤整備と連携して、駅周辺の土地利用の転換を適切に誘導し、災害に強く、石神井公園と一体となったみどりを大切にしまちづくりを進めていく。

## 2 駅周辺まちづくり事業の推進

区では、これまで「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」に基づき、南口駅前広場の整備や周辺の都市計画道路の整備などを行い、駅周辺のまちづくりを段階的に進めてきた。

29年以降は、駅南口西地区で検討されている市街地再開発事業について検討状況報告会を開催し、30年以降は、補助132号線周辺地区における地区計画によるまちづくりのルールを検討する意見交換会を開催した。令和2年7月には補助132号線周辺地区等に関連する地区計画変更、南口西地区の市街地再開発事業およびこれらに関連する都市計画の原案説明会等を開催し、12月に都市計画決定した。

### ●上石神井駅周辺整備

上石神井駅は急行停車駅であり、駅周辺には多くの商業施設が立ち並ぶなど、まちの発展の可能性を多く秘めた地域である。しかし、交通広場がなく、歩行者や自転車、自動車などが駅に通じる狭い道路に集中するうえ、踏切遮断の影響もあり、交通渋滞などが課題となっている。そのため、交通広場を含む外郭環状線の2（千川通り～新青梅街道間）の整備と西武新宿線の立体化に取り組んでいる。

外郭環状線の2は、27年12月から測量を行い、30年12月に事業の認可を取得し、事業に着手した。また、令和2年10月に都、関係区市および西武鉄道が西武鉄道新宿線（井荻駅～西武柳沢駅間）連続立体交差化計画等の都市計画案および環境影響評価書案の説明会を行い、現在は都市計画決定に向けた手続を進めている。

## 1 整備の方針

20年3月に重点地区まちづくり計画を策定し、まちづくりを進めてきたが、外郭環状線の2の事業化や鉄道の連続立体交差化計画の具体化に併せて、現在は

その一部変更の手続を進めている。

## 2 まちづくり事業の推進

区では、重点地区まちづくり計画に基づき、外郭環状線の2と交通広場の整備に加え、令和元年5月より、地域住民と地区計画などのまちづくりルールの検討を進めている。また、駅前における建物の共同化の実現を目指し、勉強会などを開催している。

### ●生活拠点の整備

練馬駅・石神井公園駅・大泉学園駅・光が丘駅・上石神井駅を除く各駅周辺地区を生活拠点として位置付け、地域の状況に合わせて道路整備などと連動しながらまちづくりを進めている。

#### 1 江古田駅周辺地区

30年度まで江古田北部地区密集住宅市街地整備促進事業によるまちづくりに取り組んできた。災害に強く、安全で快適なまちの形成を誘導していくため、18年6月に「江古田駅北口地区地区計画」、30年3月に「江古田北部地区地区計画」、令和元年11月に「江古田南部地区地区計画」を都市計画決定している。

#### 2 中村橋駅周辺地区

17年1月に「中村橋駅南口地区地区計画」を、25年3月に「中村橋駅北口地区地区計画」を都市計画決定し、住環境の保全と活力ある市街地の形成を目指している。

#### 3 富士見台駅周辺地区

23年2月に重点地区まちづくり計画を策定し、密集住宅市街地整備促進事業によるまちづくりを行っている。30年12月に「富士見台駅北部地区地区計画」を都市計画決定し、31年1月には新たな防火規制の区域指定を行うなど、災害に強く、安全・快適なまちを目標に取組を進めている。

#### 4 保谷駅周辺地区

保谷駅周辺地区まちづくり協議会の提言を踏まえ、地域住民が協議を重ね、令和元年12月、建替え時の自主ルールである「保谷駅南口駅前通りまちづくり宣言」を策定した。安全で快適な環境を目指し、区も連携してまちづくりに取り組んでいる。

#### 5 東武練馬駅周辺地区

令和元年度まで北町地区密集住宅市街地整備促進事業によるまちづくりに取り組んできた。災害に強く、安全で快適なまちの形成を誘導していくため、22年11月に「東武練馬駅南口周辺地区地区計画」、27年1月に「北町二丁目西部地区地区計画」、令和元年8月に「北町一丁目地区地区計画」を都市計画決定している。

#### 6 武蔵関駅周辺地区

26年5月に重点地区まちづくり計画を策定し、西

武新宿線の立体化に併せ、交通広場や補助 230 号線などの整備に向けて、取り組んでいる。令和 2 年 10 月に都、関係区市および西武鉄道が、西武鉄道新宿線（井荻駅～西武柳沢駅間）連続立体交差化計画および交通広場計画等の都市計画案および環境影響評価書案の説明会を行い、現在は都市計画決定に向けた手続を進めている。

#### 7 上井草駅周辺地区（下石神井四丁目）

26 年 11 月に重点地区まちづくり計画を策定し、西武新宿線の立体化に併せ、計画の実現に向けた取組を進めている。